

2025年度 松蔭中学校・松蔭高等学校 学校関係者評価報告

松蔭中学校・松蔭高等学校 学校関係者評価委員会

2025年度学校関係者評価委員会は、「2024年度学校自己評価」(各学年担任団、校務担当の各部ごとに実施)、「2024年度学校評価アンケート」(全校保護者対象。以下「学校評価アンケート」)、「2024年度授業評価アンケート」(全校生徒対象。以下「授業評価アンケート」)、「学校見分」(施設見学・行事見学・授業参観)にもとづき、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告します。

今年度は委員による学校見分(9月26日体育祭、10月1日 中2DS・GSコースの「総合的な学習の時間」の「ようこそ赤ちゃん先生」見学)を行いました。

11月26日には委員による討議を行い、以下の3点を柱として、また、(4)「その他」で、現在の学校運営に対する様々な意見を交換しました。

- (1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。
- (2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。
- (3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

○討議に入る前に「学校活動の現況」について、次の5点から情報を共有しました。

- ①「学校運営・経営体制」
- ②「コース制の完成、次年度からの一部共学化」
- ③「生徒募集状況」
- ④「特色ある教育活動」
- ⑤「教員の働き方改革と学校の枠組み」

- (1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。

・中学の全校礼拝では、聖歌を歌う生徒の声が大きく、高校生も礼拝のために講堂へ入堂してしばらく経つと、自然に雑談をやめて礼拝を待つ姿勢が身についている。キリスト教主義学校として礼拝の時間が大切にされている現在の学校の様子は高く評価できる。

・礼拝など、他者のために祈る時間を学校で持つことは、貴重な体験である。さまざまなプログラムの機会にもお祈りをする時間がある。キリスト教を自然に感じることに繋がっている。

- (2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。

・学校の魅力は、小学生から見ると在校生の生き生きとした姿や「行事」の様子だろうが、保護者の立場からすれば、高校卒業後をみすえた大学進学での「指定校推薦」の数の多さや「進路実績」などになる。中高生の6年はとても多感な時期で、人間関係、友人や先生との出会いが人生に大きく影響する。娘が選んだ学校が、本人にとって安心感のある学校で、それが松蔭だった。

・松蔭には生徒と自然な形で向き合っている先生が多い。1対1で話すことで、先生が子どもの力を自然に引き出している印象がある。

・部活動が次年度の夏から神戸市の公立中で変わると聞いている。そのことに危機意識を持っている保護者も多い。自らの経験から部活動が重要だと考えている人も多い。松蔭でも部活動がより充実すれば学校が活性化するだろう。

・小学校時代に、自らを表現できず居場所のない感じだった娘が、高校生になり、当時の同級生の保護者からは「別人だね」と言われるほど変わった。子どもを育てる学校だと思う。

- (3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

・今年度高校は3コース制が揃い、1期生の進学結果が出る。進路指導に関して、コースごとで方策が異なり、「AAコースは、基準を満たす者は併設大進学を保証して、自分の競技に専念できるよう」にした。専門種目の取り組みを通じて進路を決定したり、プロ選手の道を選んだりする生徒が出てきた。GLコースでは、総合型選抜(A0入試)で進学先を決めていった。LSコースは、併設大進学が保証された中で、指定校推薦・公募推薦・A0入試など受験方法も様々である。また、国公立大進学や私立大一般入試の受験を目指す生徒は3学期まで頑張る。今後は、各コースの指導を総括し、次年度以降の進路指導にどのように生かせるかが課題となる。

- (4) その他

・様々な資料は、情報がよくまとまっている。一方で、これらはあくまでもツールであり、これを使って学校が「何をするか」が大切になる。どんどんアイデアを出して、学校の強み、チャレンジ、ビジョンを議論していくことができればよい。

・松蔭は転換期に来ている。保護者の感覚として生徒数が減少していることを感じる。データやツールを基に議論を重ねて、それに保護者も参加する格好にしたい。学校としてどんどんチャレンジをしていってほしい。

・松蔭の中で初めて分かる「見えない雰囲気・良い空気感」をどう学校外に発信するかが難しい。言葉ではなかなかうまく説明できない。マーケティング部門の部署がコストはかかるが、今後必要になってくる。

・「受験で選んでもらえる学校になってほしい」と思う。PTAとしても何ができるのか考え、学校の進む方向にうまく協力して伴走していく組織でありたい。

・生徒募集では、夏に実施の「オープン・スクール」「オープン・ハイスクール」の授業では、生徒の実態が今ひとつ伝わりにくい。現在は4月の文化祭が文化部の発表会の形態を取っているので、「生徒全体が参加する学祭のような格好になればなあ」と保護者として思う。

・保護者の中には積極的に動いてくださる方もいる。保護者が率先して活動を始め、そこに先生方に入っていただくといったことができればよいと思う。

・保護者が学校に関われれば関わるほど、学校は良くなっていくと思う。学校に関われれば保護者が学校に対して愛着が沸き、学校と距離感が近くなる。それが「生きた」宣伝になる。愛着を持つ人をいかに増やすかが大切だ。現在、懇親会については各学年で実施しており、「会合に行くとは先生方と関われるから」という理由で参加される方も多い。コミュニケーションを取ることが大切であることがよく分かる。

以上、2025年度学校関係者評価委員会の報告とします。

(参考) 学校法人松蔭女子学院 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会規約 (抜粋)

第2条 (目的)

この会は、学校の現状と課題を明らかにし、併せて教職員による自己評価について、学校関係者による評価を行い、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

第3条 (活動)

この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- 2、生徒・保護者による学校満足度調査結果により、学校の現状を把握する。
- 3、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- 4、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか評価する。
- 5、その他必要な活動は、学校関係者評価委員の協議により行う。

第5条 (組織)

この会は、次の構成員によって組織する。

- 1、学校関係者評価委員 6～8名
保護者代表 (PTA本部役員)、卒業生 (千と勢会) 代表、その他学校関係者として校長が委嘱する者
- 2、校長、副校長、事務長 4名

2024年度末に一部改定